

# コンセプトラボ事業報告

コンセプトラボ株式会社

代表取締役社長 香月千晶

(崇城大学情報学部3年)

# 事業内容(2つの柱)

- 地域コミュニティブランド(SCB)の普及活動
- SCB放送局新市街スタジオの運営

# SCBの普及活動

## コンテストなどへの参加

熊本市主催 熊本競輪活性化ビジネスモデルコンテスト

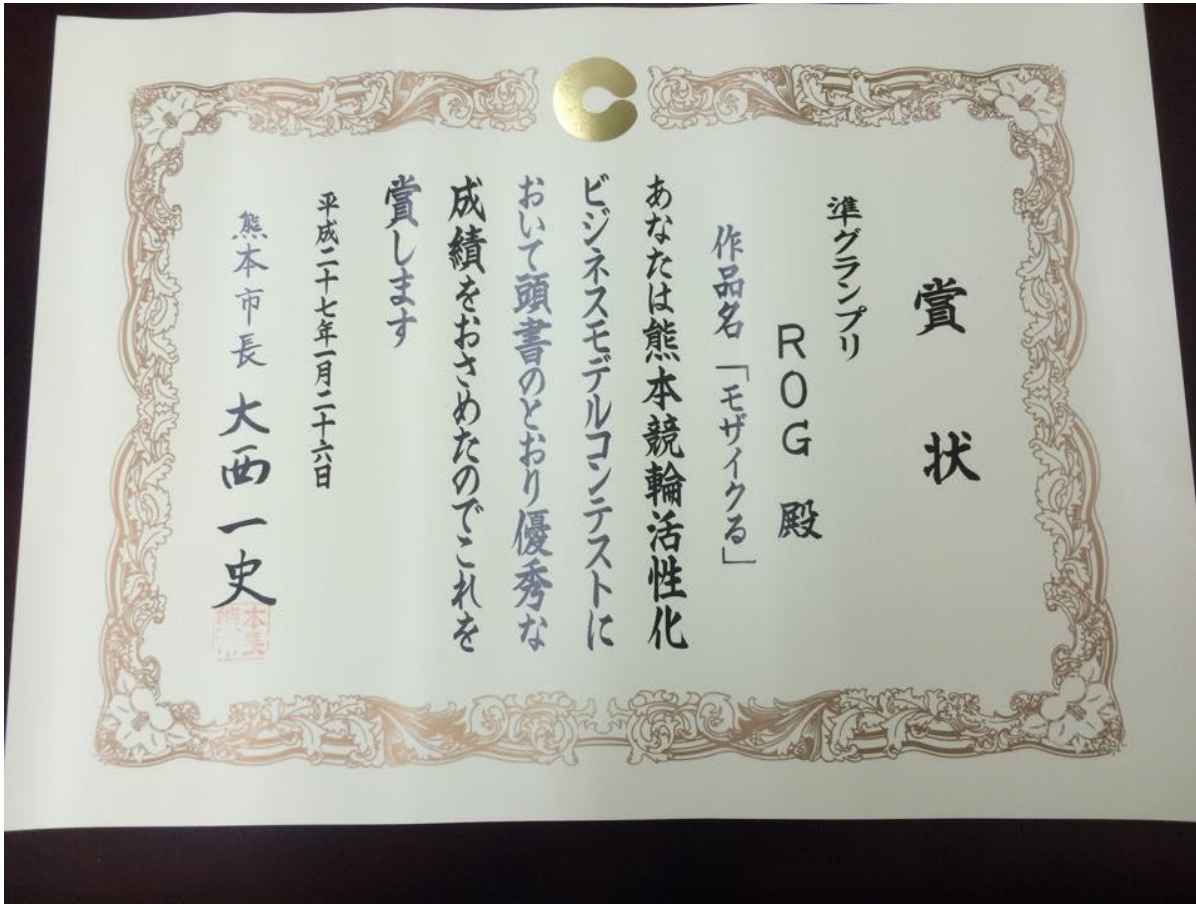
ふるさとCM大賞

第5回防災ラジオドラマコンテスト

学生CMコンテスト(2015年7月発表)

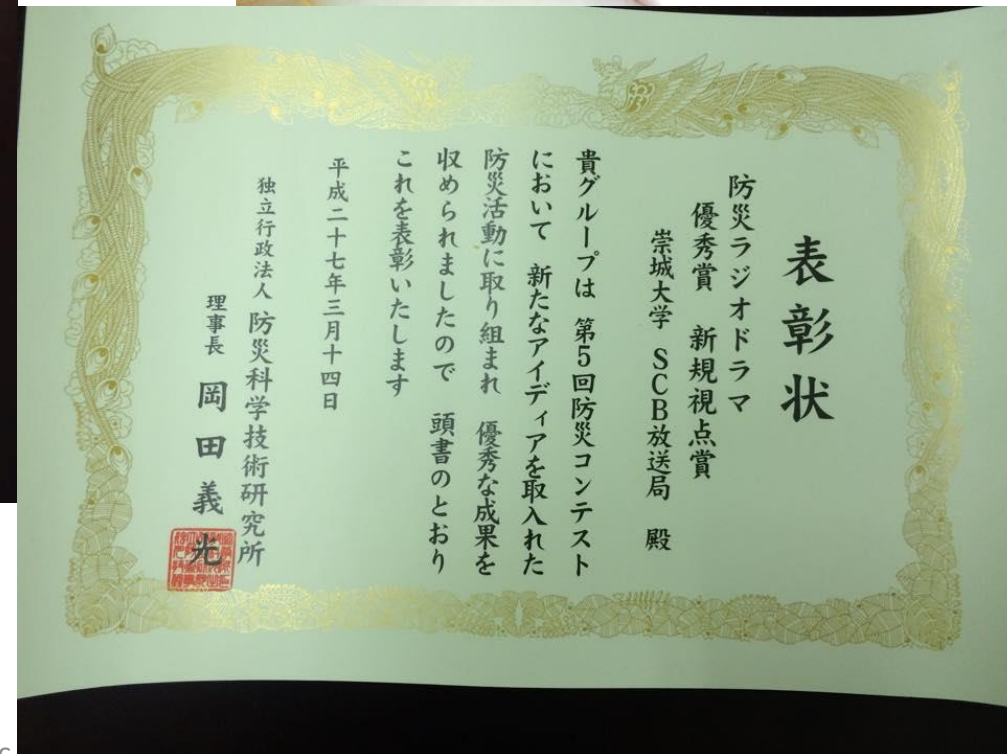
第1回田舎力甲子園

熊本県しあわせ部



熊本市主催 熊本競輪活性化ビジネスモデルコンテスト





第5回防災ラジオドラマコンテスト



# 感謝状

しあわせマイスター

崇城大学星合研究室

SCB放送局 様

あなたの頑張りでみんな笑顔になって、  
くまもとの幸せが増えたモン。  
だから、幸せづくりの達人「しあわせマイスター」と称えるモン。  
これからも、みんなが笑顔になるよう、  
頑張ってください。

平成27年3月15日

熊本県しあわせ部長 くまモン





第3報社新聞記事

## 地域活性化アイデア

# 小林秀峰高が最優秀賞

### 第1回田舎力甲子園

高校生から地域活性化のアイデアを募集する「第1回田舎力甲子園」の発表が行われ、フェイスブック（FB）を活用して小林市の商店や観光情報などを発信している商市・小林秀峰高の取り組みが最優秀賞に輝いた。生徒は「活動が認められてうれしい」と喜んでいる。

同甲子園を主催する福岡トナリを取付し、Fbは佐賀大学（佐賀市）が17月 稿。現在千人を助けるアライアアを募集し、全国ンがいる。このほか、Fbから100点の応募があった。を運用している店舗に生徒た。同大学教員や学生が活動が作った。このほりを設置書が審査し、最優秀賞を、は店舗がFbを開設する含み入賞6点と奨励賞10点 際を支援もしてきた。

同校では商業科と経営情報 可能性を感じる「ストーリー 資料の生徒が昨年4月にF ー性がある。面田い。やで Bページを開設し、「福地研」と高い評価を受けたという。 「究」という言葉の由来は、生 3年の切迫感から「17」は 生徒自ら地域の面田やイベント 「Fb」を運営するに励むす

## FB活用し情報発信



田舎力甲子園で最優秀賞に輝いた小林秀峰高の生徒たち

と、2010を超え高いい ねい。がもらえた。地域の人 あった。

表彰式は21日、同大学で とのつながりを感じた、3 年の田原典泰さん（18）は 「高校生」にできる地域貢献 を今後も続けたい」と意気 込ませた。

宮崎日日新聞社2013.7.28より抜粋



商業研究発表大会にて

第1回田舎力甲子園

# 商業高校のサブテキストでSCBが紹介

# SCBの普及活動

企業との連携、包括協定

- KAB、FMK、FM桐生、ヴォルターズ
- 雑誌社とも締結予定

**地域社会発展のための包括的連携に関する基本協定書**

株式会社エフエム熊本（以下「甲」という）と崇城大学（以下「乙」という）は、地域社会発展のための包括的連携に関する協定を締結する。

**（目的）**  
第1条 この協定は、甲及び乙が、包括的な連携のもと、相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的とする。

**（連携及び協力する事項）**  
第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、本協定の附属書に掲げる事項について連携及び協力する。

**（有効期間）**  
第3条 この協定の有効期間は、締結の日から起算して5年間とする。ただし、協定の有効期間満了の日の30日前までに、甲又は乙から特段の申し立てがない場合は、有効期間満了の日の翌日から更に5年間有効とする。その後においてもまた同様とする。

**（協定の効力）**  
第4条 この協定は、この協定締結前に甲もしくは乙がそれぞれに締結している他の協定の効力を妨げないものとする。

**（協議）**  
第5条 この協定に定める事項について疑義が生じた場合又は本協定に定めのない事項について必要がある場合は、両者が協議して定めるものとする。

本協定書を2通作成し、甲と乙が記名押印の上、各1通を保有するものとする。

(甲) 熊本県熊本市中央区千歳通町5番50号  
株式会社エフエム熊本  
社長 野方 正浩  
2013年11月13日  
野方正浩

(乙) 熊本県熊本市西区池田4丁目22番1号  
崇城大学  
学長 中山 峰男  
2013年11月20日  
中山峰男

2013.11.13  
エフエム熊本  
(FMK)

**地域社会発展のための包括的連携に関する基本協定**

**附属書**

株式会社エフエム熊本（以下「甲」という）と崇城大学（以下「乙」という）は、地域社会発展のための包括的連携に関する基本協定に基づき、附属書となる実施取り決りを締結する。

第1条 甲及び乙は、基本協定の目的を達成するため、次に掲げる事項について連携及び協力する。

- (1) 地域コミュニティブランド(仮称)の理念・理論の普及・普及
- (2) 地域コミュニティブランドに基づいた活動を推進中のプロジェクト紹介
- (3) 熊本を中心とした元気でユニークな企業の紹介
- (4) 元気でユニークな地域活性化・地域情報化活動の紹介
- (5) ラジオ番組とIT技術の新たな融合
- (6) その他両者が協議して必要と認める事項

等を目的とした番組の制作・放送に関して、甲と乙は協力してその実現に向けた取り組みを積極的に推進するものとする。

なお、熊本を中心とした元気な企業、元気な地域活性化活動を紹介することに関しては、地域コミュニティブランドの理論的な視点を通じて、企業活動、地域活性化活動を検証することにより、単なる成功事例報告でなく学術的な研究素材・研究テーマを含めた番組企画を目指す。

また、番組制作の具体的な進め方一つに、高校生、大学生、一般市民が参加可能なワークショップ形式を検討しており、教育プログラムや連携プログラムの導入により、地域・社会と協働した実践型の人材育成を念頭に置いた番組制作体制の確立を目指すとともに、ワークショップ運営にも地域コミュニティブランドの理念を導入する。

第2条 甲及び乙は、この協定による連携及び協力の円滑な推進を図るため、それぞれ連絡調整に関する担当部署を定め、定期的に協議を行うものとする。

本協定書を2通作成し、甲と乙が記名押印の上、各1通を保有するものとする。

(甲) 熊本県熊本市中央区千歳通町5番50号  
株式会社エフエム熊本  
総務企画部長 桐原 直哉  
2013年11月13日  
桐原直哉

(乙) 熊本県熊本市西区池田4丁目22番1号  
崇城大学 情報学部 教授  
SCF探究者 星合 隆成  
2013年11月11日  
J.Hoshino

**地域社会発展のための包括的連携に関する基本協定書**

熊本朝日放送株式会社（以下「甲」という）と崇城大学（以下「乙」という）は、地域社会発展のための包括的連携に関する協定を締結する。

**（目的）**  
第1条 この協定は、甲及び乙が、包括的な連携のもと、相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的とする。

**（連携及び協力する事項）**  
第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、本協定の附属書に掲げる事項について連携及び協力する。

**（有効期間）**  
第3条 この協定の有効期間は、締結の日から起算して5年間とする。ただし、協定の有効期間満了の日の30日前までに、甲又は乙から特段の申し立てがない場合は、有効期間満了の日の翌日から更に5年間有効とする。その後においてもまた同様とする。

**（協定の効力）**  
第4条 この協定は、この協定締結前に甲もしくは乙がそれぞれに締結している他の協定の効力を妨げないものとする。

**（協議）**  
第5条 この協定に定める事項について疑義が生じた場合又は本協定に定めのない事項について必要がある場合は、両者が協議して定めるものとする。

本協定書を2通作成し、甲と乙が記名押印の上、各1通を保有するものとする。

(甲) 熊本県熊本市西区二本木1丁目5番12号  
熊本朝日放送株式会社  
社長 植田 義浩  
2013年11月25日  
植田義浩

(乙) 熊本県熊本市西区池田4丁目22番1号  
崇城大学  
学長 中山 峰男  
2013年11月25日  
中山峰男

2013.11.25  
熊本朝日放送  
(KAB)

**地域社会発展のための包括的連携に関する基本協定**

**附属書**

熊本朝日放送株式会社（以下「甲」という）と崇城大学（以下「乙」という）は、地域社会発展のための包括的連携に関する基本協定に基づき、附属書となる実施取り決りを締結する。

第1条 甲及び乙は、基本協定の目的を達成するため、次に掲げる事項について連携及び協力する。

- (1) 地域コミュニティブランド(仮称)の理念・理論の普及・普及
- (2) 地域コミュニティブランドに基づいた活動を推進中のプロジェクト紹介
- (3) 熊本を中心とした元気でユニークな企業の紹介
- (4) 元気でユニークな地域活性化・地域情報化活動の紹介
- (5) テレビ番組とIT技術の新たな融合
- (6) その他両者が協議して必要と認める事項

等を目的とした番組の制作・放送に関して、甲と乙は協力してその実現に向けた取り組みを積極的に推進するものとする。

なお、熊本を中心とした元気な企業、元気な地域活性化活動を紹介することに関しては、地域コミュニティブランドの理論的な視点を通じて、企業活動、地域活性化活動を検証することにより、単なる成功事例報告でなく学術的な研究素材・研究テーマを含めた番組企画を目指す。

また、番組制作の具体的な進め方一つに、高校生、大学生、一般市民が参加可能なワークショップ形式を検討しており、教育プログラムや連携プログラムの導入により、地域・社会と協働した実践型の人材育成を念頭に置いた番組制作体制の確立を目指すとともに、ワークショップ運営にも地域コミュニティブランドの理念を導入する。

第2条 甲及び乙は、この協定による連携及び協力の円滑な推進を図るため、それぞれ連絡調整に関する担当部署を定め、定期的に協議を行うものとする。

本協定書を2通作成し、甲と乙が記名押印の上、各1通を保有するものとする。

(甲) 熊本県熊本市西区二本木1丁目5番12号  
熊本朝日放送株式会社  
開発事業部長 清田 伸一朗  
2013年11月25日  
清田伸一朗

(乙) 熊本県熊本市西区池田4丁目22番1号  
崇城大学 情報学部 教授  
SCF探究者 星合 隆成  
2013年11月25日  
J.Hoshino

### 地域社会発展のための包括的連携に関する基本協定書

熊本ヴォルターズ(熊本バスケットボール株式会社)以下「甲」という)と崇城大学(以下「乙」という)は、地域社会発展のための包括的連携に関する協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、甲及び乙が、包括的連携のもと、相互に協力し、地域社会の発展と人材の育成に寄与することを目的とする。

(連携及び協力する事項)

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、本協定の附属書に掲げる事項について連携及び協力する。

(有効期間)

第3条 この協定の有効期間は、締結の日から起算して5年間とする。ただし、協定の有効期間満了の日の30日前までに、甲又は乙から特段の申し立てがない場合は、有効期間満了の日の翌日から更に5年間有効とする。その後においてもまた同様とする。

(協定の効力)

第4条 この協定は、この協定締結前に甲もしくは乙がそれぞれに締結している他の協定の効力を妨げないものとする。

(協議)

第5条 この協定に定める事項について疑義が生じた場合又は本協定に定めのない事項について必要がある場合は、両者が協議して定めるものとする。

本協定書を2通作成し、甲と乙が記名押印の上、各1通を保有するものとする。

(甲) 熊本県熊本市中央区大江3-1-42  
熊本バスケットボール株式会社  
代表取締役 湯之上 聡

2014年 5月 9日

湯之上 聡

(乙) 熊本県熊本市西区池田4丁目22番1号  
崇城大学  
学長 中山 峰男

2014年 5月 9日

中山 峰男

### 地域社会発展のための包括的連携に関する基本協定 附属書

熊本ヴォルターズ(熊本バスケットボール株式会社)以下「甲」という)と崇城大学(以下「乙」という)は、地域社会発展のための包括的連携に関する基本協定に基づき、附属書となる実施取り決めに締結する。

第1条 甲及び乙は、基本協定の目的を達成するため、次掲げる事項について連携及び協力する。

- (1) 地域コミュニティブランド(SCB)の理念・理論を用いた熊本ヴォルターズの活性化
- (2) SCBを用いた地域コミュニティの構築と活性化
- (3) SCB放送スタジオ、SCB放送ワークショップを中心とした番組制作
- (4) アプリケーション開発、雑誌の発行
- (5) ポータルサイトの構築
- (6) 次世代ICTに関する共同研究
- (7) その他両者が協議して必要と認める事項

等に関して、甲と乙は協力してその実現に向けた取り組みを積極的に推進するものとする。  
なお、地域コミュニティに上記(3)-(5)のツールを注入することにより、地域コミュニティがどのように形成、成長するかを学術的に検証することを1的とした共同研究をスタートさせる。

また、番組制作の具体的な進め方の一つに、高校生、大学生、一般市民が参加可能なワークショップ形式を検討しており、教育プログラムや連携プログラムの導入により、地域・社会と協働した実践型の人材育成を念頭に置いた番組制作体制の確立を目指すとともに、ワークショップ運営にも地域コミュニティブランドの理念を導入する。

第2条 甲及び乙は、この協定による連携及び協力の円滑な推進を図るため、それぞれ連絡調整に関する担当部署を定め、定期的に協議を行うものとする。

本協定書を2通作成し、甲と乙が記名押印の上、各1通を保有するものとする。

(甲) 熊本県熊本市中央区大江3-1-42  
熊本バスケットボール株式会社  
代表取締役 湯之上 聡

2014年 5月 9日

湯之上 聡

(乙) 熊本県熊本市西区池田4丁目22番1号  
崇城大学 教授  
SCB発行者 基合 隆成

2014年 5月 9日

J. Hoshino

# 2014.5.9

## 熊本バスケットボール株式会社 (熊本ヴォルターズ)

# SCBの普及活動

## メディア対応

- 新聞記事(200以上)
- 雑誌(30以上)
- ラジオ、テレビ番組(レギュラー番組出演)



# ICT理論 まちおこしに応用



SCB放送局新市街スタジオで地元プロバスケットチームの番組を制作する崇城大情報学部の学生



星合隆成教授

自然とつながり、課題解決に向けた何かを生み出す仕組みにした。

熊本市中央区の新市街商店街に、地域活性化の拠点として放送局が誕生した。個人所有の多数のパソコンをネットワーク化する。スーパーコンピュータに負けない性能を発揮するというICT（情報通信技術）上の理論を、まちおこしに応用しようという取り組みで、崇城大（中山峰男学長）情報学部の星合隆成教授が中心となっている。（谷田恒信）

## 崇城大 熊本の商店街に放送局

飲食店などが並ぶ、にぎやかな商店街。そのビルの1〜2階に今春、崇城大の「SCB放送局 新市街スタジオ」がオープンした。ガラス張りで、1階部分は放送スタジオ、2階部分はフリースペースとなっている。スタジオは崇城大の学生が、地元プロバスケットチーム「ウォルターズ」の情報を発信するネット番組をオンエア。2階では、ICT塾が開かれていた。

「人を集めるのではなく、人が集まる場所を作り、人が集まる場所を作った。アイデアや技術を持つ人々が、この場所で自然とつながり、課題解決に向けた何かを生み出す仕組みにした。」

「この語る星合氏は、もとも地域活性化や街おこしと、地域活性化や街おこしとは、ネットワークの専門家だ。星合氏はNTTネットワークサービスシステム研究所の主任研究員だった。平成10年、ネットワーク理論を「世界的に注目される」として、情報を取り取りつるという理論だった。プロカレンスを活用し、NTT西日本は「グリッドサービス」を実用化した。ネットワークにつながった膨大な数のパソコンを、活用し、スパコン並みの計算能力を実現させた。このサービスはすでに終了しているが、遺伝子の構造解析や気象予測などが行われたという。

星合氏はプロカレンス理論を、コンピュータネットワーク上だけでなく、人のネットワークの形成や地域コミュニティの構築に応用しようと考えた。そこで誕生したのは、地域コミュニティブランド「Social Community Brand」略称SCBの発想だった。個人所有のパソコンをつなぐだけでなく、地域おこしに関わる人々が結びつき、自発的に取り組みを進めることで、最大限の効果を発揮を図る。また、その取り組みそのものを「ブランド化を目指す」。

SCBの発想にむき、すでに全国で50以上の「SCB放送局」を開設した。ここを拠点に人的ネットワークがつながりはじめている。「熊本県活性化プロジェクト」など、放送局を拠点に学生と地域住民や専門家、自治体職員も参加して、番組制作や情報発信が進んでいる。新市街商店街のスタジオは、放送局の第2弾として開設した。番組はインターネットの動画サイトやラジオで配信している。地域だけでなく、崇城大の学生にとっても、放送技術習得や、コミュニケーション能力向上などのメリットがあるという。星合氏は「ICTの世界の考え方を地域に導入することで、活性化を図りたい。熊本で成功させ、全国へさらに広げたい」と、日本の底力になるはずだと語った。

キーワードを入力 ニュース 検索 +

トップ 速報 写真 映像 雑誌 個人 意識調査 ランキング

主要 国内 国際 経済 エンタメ スポーツ IT・科学 ライフ 地域

北海道・東北 関東 信越・北陸 東海 近畿 中国 四国 九州・沖縄

## ICT理論でまちおこし、崇城大教授らが熊本の商店街に放送局

産経新聞 6月19日(金)7時55分配信

ツイート 3 シェア 277



熊本市中央区の新市街商店街に、地域活性化の拠点として放送局が誕生した。個人所有の多数のパソコンをネットワーク化することで、スーパーコンピュータに負けない性能を発揮するというICT（情報通信技術）上の理論を、まちおこしに応用しようという取り組みで、崇城大（中山峰男学長）情報学部の星合隆成教授が中心となっている。（南九



インタビュー  
今週の  
この人

「地域コミュニティブランド」の理念を提唱し、11月下旬に真や合志市などと協議会を立ち上げました。コミュニティブランドとは、このもののほか、地域の活性化や情報化、ビジネス開発の手法です。ものづくりの過程や関わる人の活動を個性を持って発信する「モノ」だけでなく活動そのものをブランド化します。

地方は資金がないし、多種多様な意見を生かすには企業のようなトップダウン型はうまくいきません。平等な立場で人のネットワーク、コミュニティを育てる仕組みが必要なんです。

「コミュニティネットワーク」の理論がベースになっていければいい。

地域の事業ブランド化

崇城大学教授 星合 隆成さん(51)



大分県で1979年に始まり、海外にも広まった「一村一品」運動を連想した。地元が誇れるものを作ろうという精神運動の側面もあったと聞く。「地域コミュニティブランド」はもっと複雑そう。ネットワーク理論を地域活性化に結びつけてしまう発想が面白い。アイデアや技術を持つ人々がつながり、何かを生み出す仕組みは、疲弊した地方には期待の星になるかもしれない。星合教授は、一見分かりにくい「地域コミュニティブランド」の方法論をまとめた本を近く出版するという。活動が成功し、広まることを期待したい。(河原一郎)

NTTでネットワークの研究をしていたのですが、1998年に「プロカレス理論」というものを提唱しました。サーバーや管理者のいないネットワークです。例えばパソコン同士をサーバーを通してつながる巨大なコンピュータができます。こういった考えを地域に生かせるかと考えたのがきっかけです。

「この考えを探り入れて、すでに成功した事例もありますね」

織物の町として知られる群馬桐生市では、「ronotech」(布テック)という活動があります。繊維業界と異業種の交流や、若者のアイデアを製品に生かした。iPadのケースなどを開発し、東京・渋谷の東急ハンズにコーナーができるようになりました。評判は口コミで広まり、メディアにも取り上げられました。全国で約100プロジェクトが進んでいます。

「県内ではどのような計画がありますか」

「一人がすべてのプロジェクトに関わるのは難しいので、これから力を入れているのは三つ。熊本朝日放送やエフエム熊本などと連携した番組制作、合志市で「脳テック」と名付けた認知症予防システムの構築、熊本市の熊本競輪場の活性化です。

ほかにも、熊本発のスマートフォンアプリの開発、結婚式場と連携したブライダルブランドの開発など様々なプロジェクトがあります。

「発足したばかりの協議会の役割は」

「地域コミュニティブランドの普及のため、シンポジウムやセミナーの開催、新規プロジェクトなどに取り組みます。発起人になった私と荒木善行合志市長、小野泰輔副知事ら5人は相談役のような立場。具体的な活動については、企業経営者やメディア関係者ら11人の運営委員が支援します。地域コミュニティブランドが全国に広まれば、発祥の地の熊本にもメリットがあると思っています。」

くまもと  
人物誌

地域活性化へスタジオ開設

崇城大教授  
星合隆成さん 53

「さあ、始まりました。ヴォルターズチャンネル」

4月28日、熊本市中東区の新市街アーケード内ガールの一室。ネット動画サイト「Ustream」で、崇城大の学生6人によるプロバスケットボールチーム「熊本ヴォルターズ」の応援番組「ヴォルターズch」が始まった。

学生たちが試合の感想を語り、市民目線「でチー

ムの情報を知る。「学生は楽しながら、情報技術も身につけてほしい」とが、チームも格好のPRの場になる。双方利益があるんですよ」と効果を解説する。

知識や技術、意欲を持った様々な場の人たちがアイデアを出し合い、商品やサービスの事業化、地域課題の解決を図る。そこに至るまでの過程をのべてブランド化するという「地域コミュニティブランド」の研究に動いている。

「1000年、個人のパソコン同士がネット空間で直接つながる。コミュニケーションできる環境を示す「プロカレス理論」を発表した。現在のフェイスブックやツイッターといったソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)につながる考えだ。

「プロカレス理論の講演で、参加者から「この考え方は地域活性化にも生かせないのか」と問われ、SCB理論

にたどり着いた。崇城大教授に就任してからは、SCB理論を広げるため、各地でシンポジウムやセミナーを開催。県や合志市など協議会を発足させ、理論の具体的な活用方法を議論してきた。

「その中の一つが、スタジオ開設だった。目指す先は、スタジオ発のアイデアが、新たな事業や活動に育っていく姿だ。それそれぞれの分野の専門家と市民が互いに刺激し合う。そんな場所にしていきたい。」

「街中のスタジオから何が飛び出すか。想定外の展開を楽しんでいる。」

1962年1月、徳島市生まれ。豊橋技術科学大卒。2012年4月から現職。妻、3人の子ともと離れて単身赴任中。長女、志保さん(18)は囲碁棋士。「プロカレス理論」は、米留学中に「『ササエさん』に出てくるご用聞きのような仕組みが作れないか」と考え、思いついたという。休日はいっぱい論文や著書の執筆に充てる。

「イトコ」の距離感がカギ

「イトコの大男だが、笑顔はこぼれながら、SOBの成功には、動機付フェイスブック、信頼構築(関係性)ネットワークの3つが必要だ」といふ。頭文字を取って「イトコ」だ。アイデアや知識を持つ人たちが「イトコ」の距離感でつながり、お互いの距離感が生み出せるのだろうか。これからは注目していきたい。(後藤敬人)





# 人のつながりブランド化

先端を走る  
Frontier

地域の人のアイデアを取り入れながら、モノやサービスを創出し、人同士のつながりや活動過程を外部に発信して丸ごとブランドにする。崇城大情報学部の星合隆成教授(50)はそんな「地域コミュニティブランド」の提唱者だ。この手法をいち早く取り入れた群馬県桐生市は、伝統の織物業の活性化に成功している。星合教授にブランドづくりの理念や仕組みなどを聞いた。(隅川俊彦)

「地域コミュニティブランド」を提唱

崇城大情報学部教授 星合 隆成さん(50)

■「地域コミュニティブランド」とはどんなものですか。

「ものづくりに関わる人の活動を、生まれるモノと一緒にブランド化していくことです。従来はモノをブランド化して市場に出すことが重視されてきましたが、それを生み出す人のアイデアや情熱、開発に至る失敗や苦労も情報発信してブランドにしようわけです」

■人の活動をどう発信するのですか。

「ICT(情報通信技術)を応用します。例えば、企画会議の動画をインターネット上で発信したり、開発した商品にロゴを付けた。ロゴにスマートフォンのカメラをかざすと、その商品の評判がテロップで流れるような仕組みなど、いろんな手法があります。もちろん、フェイスブックやツイッターなど既存のSNS(ソーシャル・ネ

ットワーキング・サービス)も利用します」

■成功例はありますか。

「群馬県桐生市の『nunotech』(ヌノテック)という取り組みがあります。桐生は1200年以上続く織物の町。伝統の織物業に、地元の服飾系専門学校生らさまざまな人のアイデアを取り入れ、iPadケースや撥水性の高いニットキャップなど、デザイン性も高い商品が生まれました。昨年11月に始まった取り組みですが、初期生産分は完売。商品は東急ハンズ渋谷店(東京)でも取り扱われました。ブランドづくりへの人々の活動もネット上で振り返ることができま

■発想はどこから生まれたのですか。

「私はNTT勤務時代にコンピューター同士がサーバーなしでつながる『プロカレス理論』を提唱しました。仲介者(プロ

群馬の織物業で成功 熊本でも

「nunotech」から生まれたiPadカバーやクッションを手にする崇城大情報学部の星合隆成教授=熊本市西区の同大



カー)のいないネットワークです。これを新しい情報社会の活性化に応用できないかと考えました。仲介者なしで人がネットワークのようにつながっていき、新しいアイデアをどんどん取り入れていく。そこに新しいICTを応用していきます」

■人の活動とモノを一体的にブランド化する利点は何ですか。

「モノが売れなくなっても、人のつながりやノウハウは残ります。活動をブランド化したほうがブランドの寿命が長くなり、モノにも物語性を持たせやすいのです」

■熊本では具体的にどのような取り組みを進めようと考えていますか。

「今月、県内のプライダル会社と崇城大、国府高、早稲田大の研究者と一緒に新しい

プライダルブランドの構築に向け、研究会を発足させました。今後1年をめどにブランドを形にしたいと思います。ほかにも複数のプロジェクトが進んでいます」



星合教授(左端)と「地域コミュニティブランド」に関わる崇城大の学生たち=熊本市西区の同大

◇ほしあい・たかしげ  
徳島市出身。電気通信  
大大学院で工学博士を取  
得。元NTT主幹研究員。  
NTT在職中、群馬大客  
員教授、日本大非常勤講  
師、米ベル通信研究所客  
員研究員を歴任。サーバ  
ーなしでコンピューター  
がネットワークでつなが  
る「P2P理論」を世界  
に先駆けて提唱し、プロ  
カレス理論と名付けた。  
2012年4月から現職。  
早稲田大招聘(しょうへ  
い)研究員。

1998年にP2Pネッ  
トワークの理論を提唱  
した星合教授は、優れ  
た情報技術者でもあ  
る。P2Pネットワー  
クは、コンピューター  
同士がアドウの房のよ  
うにつなががるイメー

取材を終えて

ジ。房は違う房ともつ  
ながり、無限に広がっ  
ていく。この考え方を  
元に人の発想をつな  
げ、活動をブランドに  
するという発想は斬新  
だ。今後、熊本でど  
ういう展開を見せるの  
か注目していきたい。



## 地域活性化の手法「SCB」を全国に発信

昨年11月に地元有志で協議会発足

崇城大学情報学部 星合 隆成 教授



ほしあい たかしげ  
1962年1月生まれの51歳、徳島県出身。豊橋技術科学大学卒、国立大学法人電気通信大学博士(工学)、1986年4月、日本電信電話入社。NTT研究所主幹研究員・参与。2012年3月同社退職後、同年崇城大学情報学部教授に就任。早稲田大学大学院招聘研究員、群馬大学客員教授(兼職)米田ベールコミュニケーション研究所客員研究員(兼職)。群馬県地域における通信と放送の融合に関する委員会座長代理など。著書「プロセカ」など。

SCBを共通の土台に  
地域活性化

中山峰男崇城大学学長、星合隆成崇城大学教授、荒木義行合志市長、小野泰輔県副知事、中里秀則早稲田大学教授ら発起人5人による地域活性化を目的とした任意団体・地域コミュニティブランド協議会が、昨年11月に発足した。

星合隆成崇城大学情報学部教授が提唱する地域活性化のためのブランドディングコンセプト「地域コミュニティブランド」(以下、SCB)の認知理解を広めるとともに、同コンセプトに基づく地域活性化の事業活動支援を目的に発足したもので、11人の運営委員を中心に、SCBの普及活動、事業サポート、標準化に向けた理論・研究、各種ワークショップの運営などを実施する。

協議会設立の意義について星合

隆成教授は「これまで町おこしに代表される地域振興のプロジェクトの多くは、個々の事例に特化した課題解決のアプローチをとることが大半で、ほとんどのプロジェクトをゼロから立ち上げる必要がありあました。SCBは、プロジェクトという共通の土台・プラットフォームを基に、地域おこし、町おこしを推進していく」という試みであり、その土台となるコンセプトそのものといえるものです。これまでにない、全く新しい地域振興の形が熊本から全国に向け発信される意義はたいへん大きい」と語った。

モノづくりの取り組み  
をブランド化

SCB(地域コミュニティブランド)とは、技術・人・モノ・情熱・興味・やる気・共感などの自律的な繋がりがやポトムアップ型のモノづくりを通じた活動・取り組みをブランド化したもの(活動それ自身がブランド)で、星合隆成教授がNTT研究所の研究員時代に発表した、自律分散型のコンピュータネットワーク理論・プロセカ理論に基づく、地域活性化事業や地域情報化活動の普遍的なプラットフォームとして今後

普及を目指している。県内では合志市が推進する認知症予防のための地域支援活動「脳テック」事業や、熊本競輪場活性化プロジェクト、地元放送局との協力によるSCBプロジェクトを紹介する番組制作のためのワークショップの設立、福岡では、九州で唯一のお笑い劇場「お笑い番長」の劇場運営など、同コンセプトを取り入れたプロジェクトが既にスタートし、全国でも40を超えるプロジェクトが進行中だ。

「全く新しい概念を理解説明することは、困難なことです。しかしだからこそ、従来のやり方に行き詰まりを感じている多くの方々から関心を寄せて頂いているのだと思います。SCBの手法がブランドとして確立していく中で、多くの人がその理念を受け入れる環境が整っていくものと感じています。星合教授はネット上に技術や知恵を集集し、インセンティブを与える仕組みを作り上げること、プロセカ理論に基づく地域コミュニティブランド構想を目に見える形にした。地域活性化や産業振興の具体的な手法として、今後各方面からの注目を集めそうだ。



# 初の女子大生社長 誕生



崇城大発ベンチャーの経営を任された香月千晶さん(前列左)と末廣希美さん(同右)。後列は出資者の左から早田啓考さん、星合隆成教授、内村安里さん  
＝熊本市の崇城大

情報技術で「若者の発想生かす」  
地域活性化

崇城大発のベンチャー企業に、初の現役女子大生社長が誕生した。同大情報学部2年の香月千晶さん(19)と県出身の起業家計3人がことし2月に設立。星合教授が提唱する「地域」などを活用して地域の活性化などを請け負う会社で、香月さんは「若者の発想で地域貢献に役立つ企業を目指したい」と張り切っている。

「ごブランド化する」  
現在、ネットを含めて熊本市競輪場の魅力を広く発信する仕掛けづくりのほか、プロバスケットボール熊本ヴォルターズを盛り上げるため、試合会場で観客が楽しめる携帯用アプリの開発などを進めている。  
初代社長は、出資者の1人である男性が務めていたが、「学生が起業や経営の実践を学ぶ場にした」（星合教授）として、SCB活動に携わり、起業を志していた香月さんに白羽の矢が立った。

社長就任は7月31日付。副社長にも同級生の末廣希美さん(20)が就いた。香月さんを抜てきした星合教授は「授業と違い、収支を含めて企業を存続させる責任も生まれるが、やり抜いてほしい」と、学業と経営の両立に挑む2人は「これまでの仕事を守りながら、テレビやラジオ、雑誌を組み合わせたメディアミックスによる情報発信など新たなサービスを創出したい」と夢を描いている。(原大祐)

「型にとらわれない発想が『学生社長』の強みです」

大学生社長

香月千晶さん

崇城大学情報学部の星合隆成教授と県出身の起業家3人が、昨年2月に設立したベンチャー企業「コンセプトラボ」(合志市)。同社では、「学生が企業や経営の実践を学ぶ場にした」と、昨年7月に大学生を社長に抜てきました。そこで選ばれたのが香月千晶さんです。「自分ならできる、みたいな自信がありました。今考えると不思議です」

現在、星合教授が提唱する「地域コミュニティブランド」(SCB)の事業化に取り組んでいます。学生たちを中心とした放送スタジオや学びの場の運営、イベント開催などを行う「SCB放送局新市街スタジオ」の開設準備に奔走中です。  
型にとらわれない発想も学生社長の強み。経営者になり「周囲に支えられて仕事が動いていることを実感。周りの人を大切にできるようにになりました」と、柔らかな笑顔で話します。



プロフィール

1994年、熊本市生まれ。崇城大学情報学部2年生。1年時から星合教授のSCB活動に参加。2014年7月、コンセプトラボ株式会社の代表取締役社長に就任。休日はテレビや音楽鑑賞をしてONとOFFを切り替える。卒業後は会社経営に専念する予定。

輝

香月千晶

今年にける思いを漢字一文字で表して

光が四方に散らばるように、自分自身はもちろん、会社も、仕事のパートナーも、サービスを利用する人たちも、みんなが輝くようなビジネスを展開したいですね。

## コンセプトラボ



▲4月1日にオープンした崇城大学SCB放送局新市街スタジオ外観



▲リラックスした雰囲気の中、番組収録が進む1階放送スタジオ



▲2階会議室では、社会人、学生も交え、テーマ毎に地域の課題などについての勉強会が開かれる



▲1階は番組収録スタジオ、2階は会議室

▲出席者に、SCBの意義について語る星合隆成崇城大学教授

## 中央区新市街に番組制作スタジオを開設

崇城大学発「Tベンチャー・コンセプトラボ」(株)合志市、香月千晶社長は4月1日、熊本市中央区新市街にラジオ・テレビ番組及びネットコンテンツ制作スタジオをオープンした。

場所は同地新市街アーケード沿い。飲食店・「ふく泉」東隣のHJビルの1・2階。名称は「崇城大学SCB放送局新市街スタジオ」。1階(床面積約30㎡)はネット配信用放送スタジオ、2階(床面積約60㎡)は会議室として使用する。開設費用は設備も含め約2千万円。地域コミュニティブランド(以下「SCB」)の提唱者である星合隆成崇城大学教授の指導の下、各種番組制作ならびに、起業支援のためのワークショップなどの事業に取り組む。

くまもと経済



# 地元・地域が変わる SCBが変える

熊本都市圏協議会・崇城大学SCB放送局



自律分散型のコンピュータネットワーク理論を、  
人的なネットワークの仕組みに応用した全く新しい地域活性化の手法、  
それが「地域コミュニティブランド・SCB(Social Community Brand)」。  
あらゆる地域活性化の試みにとって考え方、仕組みのベースとなる、  
いわばプラットフォームと呼べるものです。  
崇城大学構内と熊本市の中心繁華街、  
新市街に近く開設する2つのSCB放送局を使った情報発信力を武器に、  
地元熊本で、これまでにない  
全く新しい地域活性化プロジェクトが始まります。

お問い合わせ先

熊本都市圏協議会 事務局 | 〒869-1192 菊池郡菊陽町久保田2800番地(菊陽町役場総合政策課)  
TEL.096-232-2112 FAX.096-232-4923

崇城大学SCB放送局 | 〒860-0082 熊本市西区池田4-22-1 崇城大学情報学部棟 1F  
TEL 096-326-3111 <http://org.scbbrand.info/>

協力:くまもと経済・地域情報センター

Copyright by Concept Lab Inc.

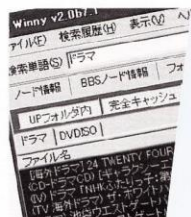
熊本都市圏協議会とSCB放送局が共同で作成した情報誌

「皇太子発言」徹底解明／ペ・ヨンジュンと東大女子

# AERA

04.5.24  
No.22定価360円  
アエラ

1には必ず「管理者」がいる。代表的な大規模掲示板で、誹謗中傷の書き込みが時に問題になる「2ちゃんねる」の場合も同じ。これらの掲示板に、プライバシーを侵害するような書き込みをされた場合は、管理者が削除する仕組みができていて、放置した場合、名誉



激変する情報流通...制御の仕



創刊16周年記念

Winny応用型掲示板 (P2P)

管理 たまごみ通

**概念は自由・平等・対等**  
とはいえ、ネカタイプを面だけを強調するのは良くないかもしれない。たとえば、インターネットそのものが監視されている独裁国家で、人権活動家などが、当局に把握されずにメールのやり取りをする際に役立つ技術でもあるのだ。P2Pの日本での第一人者といわれるNTTの長谷川隆成(長谷川隆成)は、「その概念について、誰にも必要以上に管理されない、自由で、平等・対等で、自律的なネットワーク社会」と説明した上で、「つまり諸刃の剣なんです」  
「助手の支援を呼びかけるホームページには、「ネットの自由を守らない」となどの書き込みも目立つ。裁判費用のキャンバも3日間、約200万円集まったという。」

編集部 内山正紀

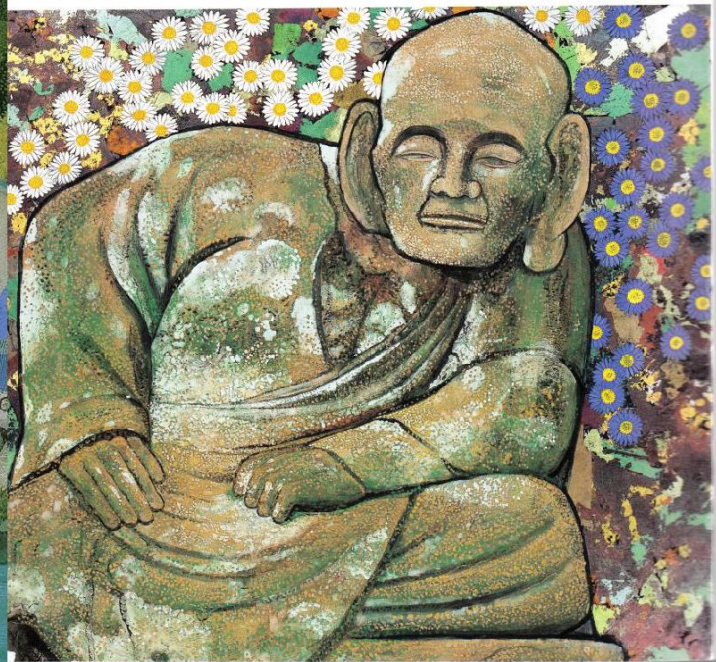
「捜査報告書ひたくり14・8」  
3月下旬に、ウイニーを通じて

者を置き、ファイル交換の仕組みで使ったような匿名性までは保持できないものになっていく。  
だが、彼の技術力ならば、「完全版」の開発は可能だったのは間違いない。  
すでに、研究者レベルでは出現しつつある。テスト運用中と断り書きがついた、あるシステムの説明では「書き込みは消せません。でも75日後には消えるようにしました。人の噂も75日ということですね」とある。

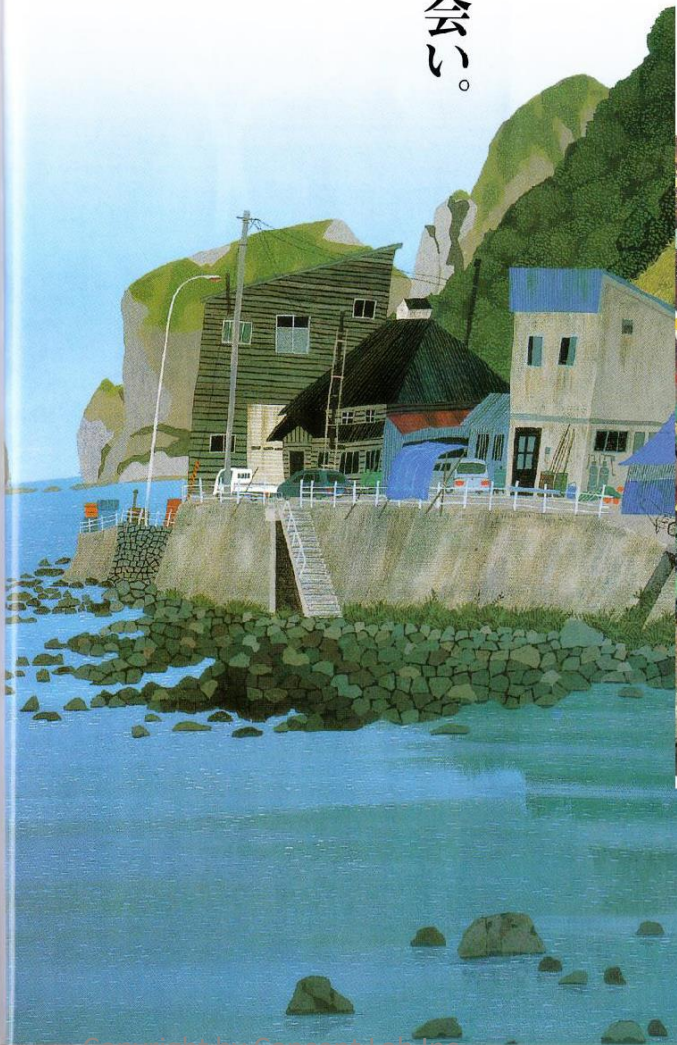


# 文藝春秋

芥川賞発表受賞作全文掲載 九月特別号  
道路公団「潰せ」「潰すな」大論戦 猪瀬直樹 vs 亀井静香



新しい出会い。



絵／原田泰治  
コンピュータによる画像処理をしています。

どこまでも透明な海。漁に出る夫のかたわらで船の支度を手伝う老婆の姿。旅先では、探していたものに出会ったかのように心に響く光景があります。

あっという間に世界へ広まったインターネット。いまやネット上には膨大な数の情報があり、この中から欲しいものを探し出すのは大変な作業です。そこで通常は、情報の仲介者としての検索サイトを利用します。この方法はとても便利ですが、利用が集中するとながりにくかったり、検索範囲に限りがあったり。また、たったいま発信された情報まではカバーできません。こうした仲介をいれずに、インターネットの利用者同士が直接、情報のやりとりをする方法もあつていいのではないのでしょうか。NTT研究所が世界に先駆けて提唱した「SIONet」<sup>シオンエツ</sup>では、個人があらかじめ自分の端末に登録した内容を手がかりとして、欲しい情報が吸い寄せられるように集まってきます。例えば「年齢四十五歳、趣味はジャズ、近々札幌へ出張予定」と書き込むと、札幌のジャズ喫茶案内が自然に届いたり、同好サークルから誘いがきたり。何よりも安心なのは、登録内容が自分の端末から外へ漏れないこと。また登録を消せば以後情報は来なくなります。網をはっている所に魚がかかるような具合に、合致する情報だけが集まり、発信者と直接つながるのです。この新しい「探索と発見の仕組み」を今後どう活用していくか。可能性は無限大。一人一人の「私」が主役になる、個人に優しいインターネット技術です。

## 「SIONet」の利用イメージ例



「SIONet」は、個人が端末に登録した内容で探索と発見ができる意味情報ネットワーク。例えば満員電車の中で、次の駅で降りる人が「疲れている人に席を譲りたい」と思えば、手持ちのPDAに登録するだけで、あらかじめ「荷物が多くてヘトヘトです」と登録していた女性の携帯端末に着信するなど。今後の活用次第で、暮らしの中の小さなコミュニケーションにも役立ちます。

SIONet: Semantic Information - Oriented Network





# 【関連記事】

□商店街だより:新市街スタジオ, 熊本日日新聞, 2015.6.23

□ICT理論、まちおこしに応用, Yahooニュース, 2015.6.19

□ICT理論、まちおこしに応用、産経新聞、2015.6.19

□くまもと人物語, 読売新聞, 2015.5.11

□商店街だより:新市街スタジオ, 熊本日日新聞, 2015.4.28

□コンセプトラボ:新市街スタジオ, くまもと経済, 2015.5月号

□輝く! くまもとの未来人, すばいず\*spice, 熊本日日新聞, 2015.1.7

□SCBがもたらす新たな町おこしのカタチ, くまもと経済, 2014.11月号

□学生主体による自主制作番組を放送, くまもと経済, 2014.8月号

□7月22日に学内に放送スタジオがオープン, くまもと経済, 2014.7.31

□大学発ベンチャー, くまもと経済, 2014.9月号

□崇城大学発のベンチャー企業:コンセプトラボ(株), 熊本日日新聞, 2014.8.6

□SCB放送局オープニングセレモニー, 熊本日日新聞, 2014.7.23

□SCB全国に発信, くまもと経済, 2014.1月号

□コミュニティビジネス手法 熊本から全国へ,朝日新聞, 2013.12.12

□インタビュー今週のこの人,朝日新聞, 2013.12.2

□協議会発足、ビジネス創出狙う, 熊本日日新聞, 2013.11.28

□崇城大学教授合志市で講演、商品開発過程をブランドに, 熊本日日新聞, 2013.5.27

□合志市がシンボ、モノづくりを通じ地域活性化目指す, 読売新聞, 2013.5.26

□ものづくり通じ地域連携図ろう, 熊本日日新聞, 2013.2.25

□商品開発に外部の発想、識者提唱, 読売新聞, 2013.2.17

□熊本発に期待, 熊本日日新聞, 2012.11.30

□SNSは自治を変えることができるのか、47行政, 2012.11.28

□新たなプライダル企画創出を目指し初会合, くまもと経済2012年11月号

□地域コミュニティブランドを提唱, 熊本日日新聞, 2012.10.22

□地域活性化の具体的な手法を提案, くまもと経済, 2012年6月号

# SCBの普及活動

講演活動(100件以上)

▶ [タウンプロデューサー](#)

▶ [まちげんきフェス](#)

ご意見お聞かせ下さい!  
記事に対するご意見、あなたの周りのご存知の街づくりの取り組みなど教えてください。

投稿する

## まちげんきフェス - 地域とタウンプロデューサーのマッチング - 開催予定のお知らせ

各地域においてまちづくりに取り組む方々（自治体、商工会議所、まちづくり会社など）が**タウンプロデューサー**へ直接相談できるイベント「まちげんきフェス」を開催します。

また、まちづくりを構成する**各分野（例：金融、メディアコンテンツ、自治体等）のスペシャリスト**の方々もお招きし、特色あるまちづくりを行うための支援策や情報を提供します。

【テーマ】

- 地域特産品のブランディング

【テーマ】

- 先進的な自治体

【テーマ】

- 資金の活用方策  
（クラウドファンディング）



高橋 俊宏  
株式会社 柵出版社  
Discover Japan 統括編集長



白田 典子  
有限会社良品工房 代表



星合 隆成  
崇城大学 情報学部 情報学科  
教授（工学博士）  
早稲田大学客員

【テーマ】

- 地域資源の魅力発掘

【テーマ】

- 食のプロデューサー

【テーマ】

- 地域コミュニティブランドの  
プラットフォームづくり



# 理論の発表



2014. 9. 18開催

(5) サーバプッシュにおける配信タイミング制御のためのモバイル端末

大西 健夫(日本電気), 城島 貴弘(日本電気)

(6) 選択型コンテンツの放送型配信システムの実現

後藤 佑介(岡山大学), 山本 泰平(岡山大学), 谷口 秀夫(岡山大学)

18日 16:30-18:00 ●招待講演 会場: 新1号館2階 N1206室

(7) ブローカレス理論を用いた地域活性化の取り組みについて

星合 隆成(崇城大学)

# 理論の発表

2015. 1. 15 開催

## 電子情報通信学会 研究会

1月15日(木) 午後 LOIS-1 14:10 - 15:30			
(4)	14:10-14:30	<a href="#">総電力時系列データに基づく機器動作状態の推定</a>	○井上洋思・石山文彦・渡辺敏雄・大山 孝 (NTT)
(5)	14:30-14:50	<a href="#">NicerCover v2: A Serverless Webapp for Social Networking on Top of Scientific Portals</a>	○Marat Zhanikeev (Kyutech)
(6)	14:50-15:30	<a href="#">[招待講演] ブローカレス理論を用いた地域情報化・地域活性化について</a>	○星合隆成 (崇城大)・吉見憲二 (早大)



SCB全国サミット開催  
発起人：熊本県、合志市  
2013. 2. 23



合志市主催SCBシンポジウム開催  
2013. 5. 25





# SCB協議会の発足 発起人：熊本県、合志市



学生による放送スタジオの運営



学生による放送スタジオの運営



SCB協議会発足の記者会見



SCB協議会発足の記者会見



SCBの全国サミット(阿蘇)



放送スタジオ オープニングセレモニー



放送スタジオ オープニングセレモニー

# 日本フェイスブック学会 佐賀県武雄市主催



新着

SNSは自治を変えることができるのか 日本フェイスブック学会から

2012/11/28/ 16:45

フェイスブックを開発する自治体が相次ぐ中、動きの先駆けとなった佐賀県武雄市で「地方自治20」をテーマにした第2回フェイスブック学会が11月16日から18日まで開催された。



フェイスブックによって地方自治が「(バージョン)1.0」や「1.5」から進化するのではないかという思いで参加した人々は延べ500人遠くは沖縄・石垣島からも。

学会」と銘打ってはいるが、研究者だけでなく各地の自治体職員や、地域づくりに興味を持つ市民の、フェイスブックなどソーシャルネットワーキングサービス (SNS) 活用をめぐる活発な発言が目立った。現地取材と、USTREAM (ユーストリーム) の会場中継からキーワードを拾った。

(47行政ジャーナル 橋田欣典)

初日のトークで、星合隆成 崇城大学情報学部教授は、ものづくりを通じて地域社会を構築し、その物語をブランドにして売り出す「地域コミュニティブランド」の考え方を説明。提唱者として群馬県桐生市で織物のまちづくりを進めた実践例を示し「草の根運動で得た共感を可視化し発信することの重要性を強調した。



杉田かおる氏とともにゲストスピーカとして招待講演

Copyright by Concept Lab Inc.

樋渡武雄市長(左)



# SCBの普及活動

招待論文 5件

- 電子情報通信学会
- 情報処理学会など

# SCBの普及活動

## 出版活動

- ブローカレス理論 (オーム社より)
- SCB (ソトコト新書より出版予定)

発売元 オーム社  
定価 (本体0000円【税別】)

ブローカレスモデルとSIONet

新世代ネットワーク技術の全貌

# ブローカレス モデルと SIONet

編著者 工学博士 星合隆成

## 目次

- 第I編 P2Pの理念
- 第II編 意味情報ネットワーク
- 第III編 SIONet操縦法
- 第IV編 P2Pテクノロジーの動向

編著者 工学博士 星合隆成

TTA  
電気通信協会

## インターネットの新潮流

### P2P・ユビキタステクノロジーの決定版

SIONetの発明者がP2P・ユビキタスの  
コンセプトと原理を解き明かす

電気通信協会

# SCBの普及活動

## 特許取得

- 国内特許36件
- 外国特許10件

(12) **United States Patent**  
**Hoshiai et al.**

(10) **Patent No.:** **US 7,702,744 B2**  
(45) **Date of Patent:** **Apr. 20, 2010**

(54) **SEMANTIC INFORMATION NETWORK  
(SION)**

(75) Inventors: **Takashige Hoshiai**, Tokyo (JP); **Yukio Kikuya**, Tokyo (JP); **Hiroshi Shibata**, Tokyo (JP); **Takamichi Sakai**, Tokyo (JP); **Michiharu Takemoto**, Tokyo (JP)

(73) Assignee: **Nippon Telegraph and Telephone Corporation**, Tokyo (JP)

(\*) Notice: Subject to any disclaimer, the term of this patent is extended or adjusted under 35 U.S.C. 154(b) by 1105 days.

(58) **Field of Classification Search** ..... 707/1-10;  
709/217-219  
See application file for complete search history.

(56) **References Cited**

U.S. PATENT DOCUMENTS

5,758,332 A \* 5/1998 Hirotsu ..... 707/1  
5,870,605 A 2/1999 Bracho et al.  
5,970,490 A \* 10/1999 Morgenstern ..... 707/10  
6,021,443 A \* 2/2000 Bracho et al. .... 709/241  
6,134,532 A \* 10/2000 Lazarus et al. .... 705/14.25  
6,178,416 B1 \* 1/2001 Thompson et al. .... 707/3  
6,263,335 B1 \* 7/2001 Paik et al. .... 707/5

(Continued)

米国特許、US7702744B2, 2010.4.20

# SCBの普及活動

## 行政との連携

- 経済産業省(スペシャリスト選任)
- 熊本県(しあわせマイスター認定)
- 都市圏協議会(14市町村)
- 熊本市(空き店舗対策補助事業)
- 合志市(あぐっと!村) など

# 事業内容(2つの柱)

- 地域コミュニティブランド(SCB)の普及活動
- SCB放送局新市街スタジオの運営



# 1. 新市街スタジオの主な目的

- 新たなAL(アクティブラーニング)の実施(学びの場の提供)
- 学生イベントの開催
- 放送、情報発信リテラシーの向上
- 学生起業(情報学部学生による起業、スタジオの運営)
- 地域連携、地域貢献、情報発信基地の提供
- SCBの学術評価



## 2. AL(学びの場)

### テーマ

- 起業: 中小企業庁受託案件
- 農業: 5団体が参加
- IT: キッズプログラミング、情報処理技術者試験合格講座
- スポーツ: 熊本ヴォルターズ、自転車
- メディア: KAB、雑誌社による学生ディレクター養成講座
- 高校生塾: 高校生の集いの場(約30名の高校生が参加)
- 大学生塾: 大学生の集いの場

\*\*\* すべてのALに学生が参画

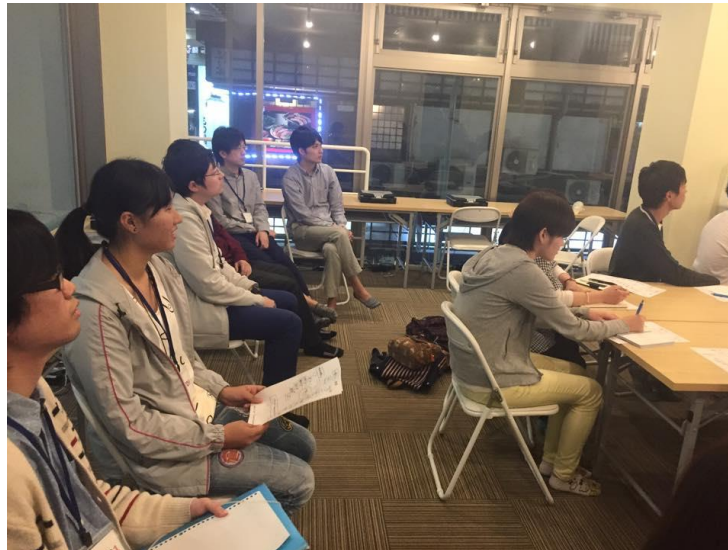
## 2. AL テーマ: 起業

- 7月25日から3つの起業塾が一斉に始動予定(中小企業庁のファンドを利用)
- 松岡塾、コンセプトラボ運営の塾、ハッカデミー
- 6月6日、7日に起業イベント開催
- 6日、7日で述べ30名動員



## 2. AL テーマ：農業

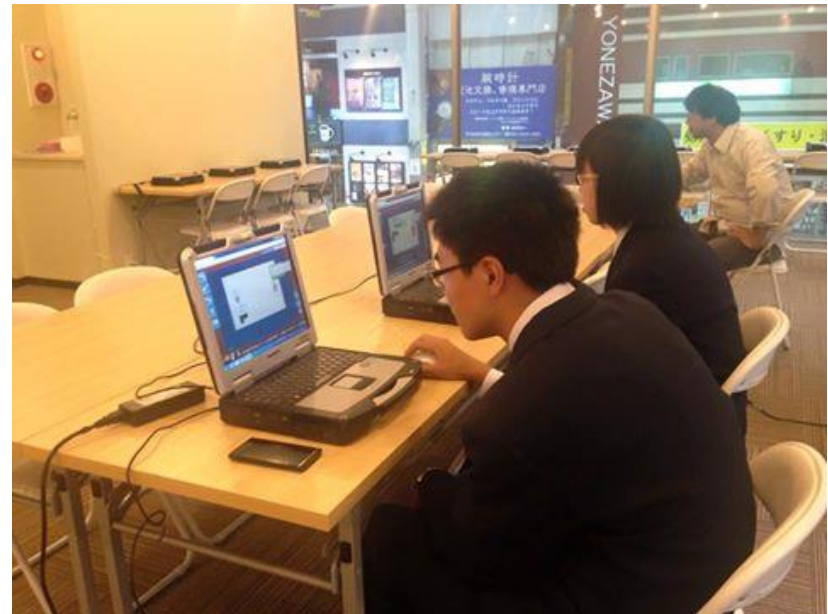
- 現在、土の魔術師、ハナウタカジツ、グリーンマーケットの3つの塾が活動中
- グリーンマーケットは熊本市主催のビジネスモデルコンテストでグランプリに選ばれた、アメリカ・ボストンチームのアイデア
- 8月より合志あぐっと！村が参加





## 2. AL テーマ:IT

- 現在アプリーグ、ハッカデミー、キッズプログラミング、中高校生向けプログラミング教室が活動中
- アプリーグではハッカソン・アイデアソン等のイベント開催
- 情報処理技術者試験合格講座を開講予定

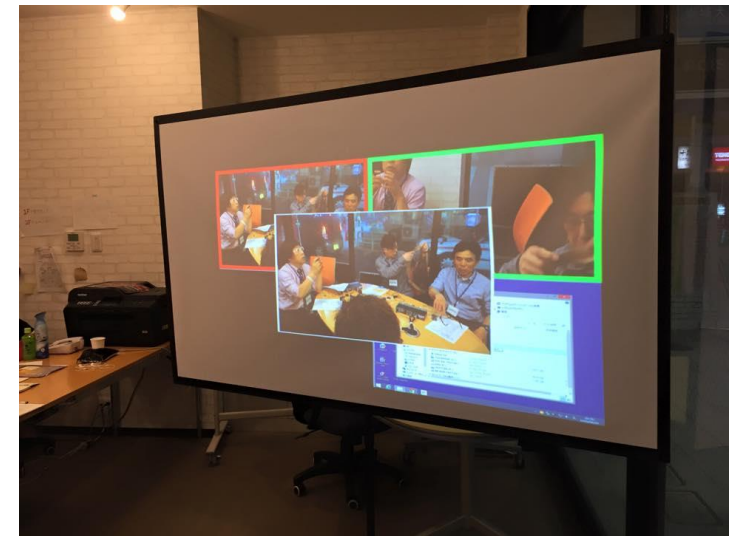


## 2. AL テーマ:スポーツ

- SCB自転車塾

自転車の魅力を伝える番組を制作

参加者は、競輪選手・市の職員・自動車学校の職員等

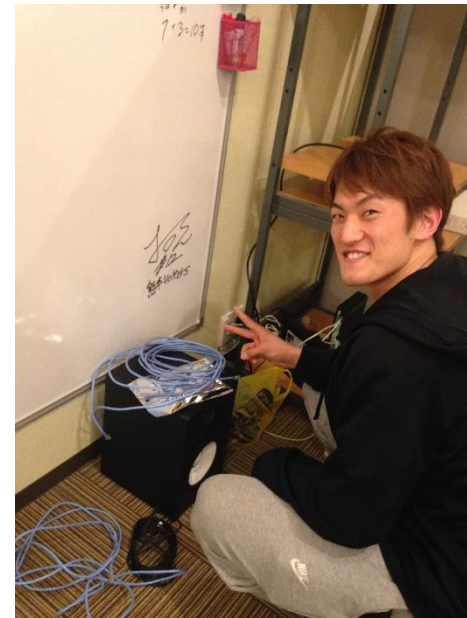




## 2. AL テーマ:スポーツ

- ヴォルターズch

熊本初のプロバスケットボールチーム、熊本ヴォルターズの応援番組  
企画、運営、放送のすべてを学生が行っている  
選手を実際に新市街スタジオにお呼びしての番組収録  
試合の取材





## 2. AL テーマ:メディア

- マルチな分野で活動できる人材の育成
- 新市街スタジオ技術者育成講座
- 外部コンテンツのPR、制作
- 崇城大学の元芸術学部教授、船津先生の“節目箸”をプロデュース中



## 2. AL テーマ:メディア

### 講義(2014年度より)

- 映像制作演習にて通年授業
- KABによる講演、CM企画・制作実践
- FMKによる講演、ラジオ番組企画、ラジオドラマ制作実践演習
- FM桐生による講演、ラジオドラマ企画、制作実践演習  
→防災ラジオドラマコンテストで優秀賞受賞





## 2. AL テーマ:高校生

- After school club  
高校生と大学生による番組作り  
大学生への進路・夢相談所



after  
school  
club

▼ sun 15:00-18:00  
▼ shinshigaistudio



## 2. AL テーマ: 大学生

- Unitーク

学生の運営によるトーク番組

崇城大学の学生だけでなく、県立大学・学園大学・熊本大学等の学生も参加



# 3. イベントの開催

- NASAハッカソン
  - 米国NASAと連携したハッカソンイベントの開催(4月11日～12日実施)
- JINSアイデアソン
  - メガネメーカーJINSと連携したアイデアソン(5月24日実施)
- 学生主催の海外研修セミナー(5月31日実施)
- 若手企業家セミナー(6月6日実施)

# NASAアイデアソン・ハッカソン

- ・参加者 アイデアソン(プレアイデアソン含む):44名  
ハッカソン:48名
  - ・NASAが出した課題に2泊3日に取り組むイベント
  - ・熊本、東京、ボストンの共同チーム
- ☆新市街スタジオのスタートイベント





# NASA主催のハッカソンを熊本で運営

- 熊本市、くまもと都市圏協議会、メディア各社の協賛
- SCB放送局新市街スタジオで開催



あなたのアイデアと技術を世界へ

## Hack Challenge Kumamoto

Part of NASA International Space Apps Boston

INTERNATIONAL SPACE APPS CHALLENGE

SCB放送局新市街スタジオ 2階  
熊本県熊本市中央区新市街4番15号HUビル1階・2階

**アイデアソン** (日米共同開催)  
2015.3.22 Sun 9:00 - 15:00

**参加費 無料**

お問い合わせ info@appleague.boo.jp  
03-5809-1647  
株式会社社内: AppLEAGUE秋葉原支店

**ハッカソン** (日米共同開催)  
※チームのイニシアチブが東京かボストンかによって開催時間が変わります。  
東京チームに参加の場合  
2015.4.11 Sat 10:00 - 4.12 Sun 15:00  
ボストンチームに参加の場合  
2015.4.11 Sat 21:00 - 4.13 Mon 8:00

ハッカソン当日、スタジオ1階でお子様向けプログラミング体験会も同時開催致します。  
(2階で行われているハッカソンの見学も可能です)  
**お子様向けプログラミング体験会**  
2015.4.11 Sat 13:00 - 4.12 Sun 13:00 - 17:00  
内容: プログラミン (文部科学省提供)、その他  
参加費: 無料

HackChallengeKumamoto オリジナル賞  
プライム株式会社特別賞

特別協賛  
PRIME

MIX TEAM 後援  
IBM

プログラミングスクール後援  
Mobile Factory

後援  
崇城大学星合研究室 熊本市 くまもと経済 キロクマ!  
熊本高等専門学校 熊本都市圏協議会 熊本日日新聞 Concept Lab Inc.  
くまもと情産協 KAB 東京熊本県人会

Hack Challenge Kumamoto とは？  
2015/4/11-2015/4/12にNASA主催のハッカソンであるInternational Space Apps Challenge (ISAC)が開催されます。  
米国の非営利団体Binnovativeにより主催・運営される「Binnovativeボストン・東京ミックスチーム」がISACに参加します。  
熊本在住者が、そのミックスチームへ参加するためBinnovativeとAppLEAGUEが協力して開催するイベントが「Hack Challenge Kumamoto」です。「Hack Challenge Kumamoto」では、チームに参加して頂ける仲間を募集しています。  
ご参加へ挑戦しませんか？

主催: 一般社団法人AppLEAGUE Binnovative

# JINSアイデアソン

- 大手メガネブランドJINSとのコラボレーション
- 参加者 22名





# 学生主催の海外研修セミナー

- 学生が企画・立案をした海外研修セミナー
- Skypeを用いた東京在住の海外渡航経験者との対談





## 4. 商店街との連携

- アートプレックスKumamoto主催の大道芸大会へスタッフとして参加  
→熊本を中心市街地と市が開催するイベント
- 熊本まちなか美術館
- ゆかた祭り
- 夜市
- 商店街との新聞記事の共同執筆

→商店街、地域にスタジオが浸透しつつある

# 5. スタジオについての地域の声

- 崇城大学は面白い取り組みをしていますね
- ぜひSCBを学びたい
- 講演会をもっと開いてほしい
- 若い人たちにたくさん活躍してほしい
- このスタジオは目立っていいね
- 大学生社長ってすごいね
- 前から気になっていたが、もっと入りやすくしてほしい
- 既存のメディアではできないような放送をしてほしい
- 崇城大学のOB、OGが訪ねる場所があるのは嬉しい  
→OB、OGの積極的な活動の場となりうる

# 7. SCB放送局の運営スタッフ

- 62名(情報学科のみ)
- これまで特別なスタッフ募集を行っていない。口コミ等での参加が中心のため、他学科の参加者はいない
- 昨年の他学科参加者は卒業
- 崇城大学OB、OGも参加
  
- その他の参加大学等(参加人数は20名程度)
  - 熊本学園大学、熊本県立大学、ビジネス専門学校、熊本大学、早稲田大学、  
佛教大学、高校が数校参加



御清聴ありがとうございました